

下線は `underline` コマンド, 太字は `textbf` コマンドを用いる. 下線. **太字**.

図1は Mathematica でグラフを描いて, eps ファイルで保存し, 出力している.

図について

Mathematica を使った図の作成方法

- 下の図は $y = x^3 - 1$ のグラフを Mathematica で描いている.
- プログラムは `Plot` コマンドを用いている. 範囲は $-2 \leq x \leq 2$ で出力している.
わからないときは, Mathematica を開いて
ヘルプ→ Wolfram ドキュメント→「Plot」で検索するといろいろな具体例を表示してくれる
- Mathematica で描かれた図を右クリックして「形式を選択して図を保存」を選択することで図を保存できる. eps 形式で保存するのが標準的. (ただし最近では pdf で保存してしまうことも多いらしい)
- 保存場所はなるべく `tex` のソースファイルと同じ場所にする.
- Mathematica 自体は大学の PC に入っている. 東海学生ならば, 大学ホームページから自身のパソコンにダウンロードも可能. サイトは研究室のゼミ関係のページにリンクがある.
- その他の Mathematica のプログラムについてはゼミ室にある入門書を参照してください.
- ちなみにこの箇条書きは `itemize` というコマンドを用いている.

図の挿入の注意点

- 図を挿入する場合は「`\usepackage[dvipdfmx]{graphicx}`」という一文を宣言する.
(上のコマンド部分の `\` と括弧記号 `{,}` は本当は半角文字.)
- 図を入れる際には `figure` 環境を利用する.
- 「図1・・・」という部分は `caption` コマンドを使っている.
- 今回の図の配置は `center` 環境で, `bottom` に限定している. また, `width=5cm` にしている.

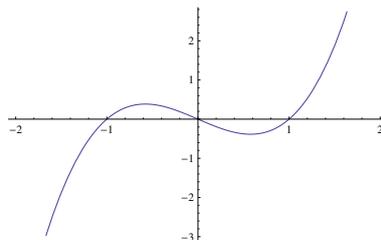


図1 $y = x^3 - 1$ のグラフ